

月報

96号

発行所

青丘文庫

編集・発行★電話

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2F

TEL (078) 734-5989

FAX (078) 735-0660

朝鮮民族運動史研究会

第一三六回例会

李卓

一九九四年五月十五日

「スターリン大粛正時期における在ソ朝鮮人の関わり―趙素昂の外交覚書を中心に―」

一昨年九月以降日本共産党による野坂参三の解任、除名の出来事をきっかけとして、一九三七・三八年に集中的に行われたいわゆるスターリン大粛正時期における在ソ朝鮮人の関わりについて関心をもつようになった。当時極東内務人民委員部の長官を務めたリュシコフによると、その時千五百名余りの朝鮮人が逮捕されたといひ、ちなみにコミンテルンの朝鮮部全員が弾圧をうけたともいわれている。本報告は重慶の大韓民国臨時政府の外交部長趙素昂が、一九四三年頃ソ連タス通信社駐中特派員に送った外交覚書を手がかりとした。ソ連当局の朝鮮人弾圧にたいする抗議覚書の性格を持つこの文章には、他の資料にみられない朝鮮人拘禁者五七人の名簿が載せられているという点で、検討に値する史料的价值があると思う。だが、この文章にはソ連内政にたいする情勢分析の欠如や、拘禁者名簿においても朝鮮民族解放運動史上のほとんど無名の人びとが半数以上を占めているなど、いくつかの問題点を抱えているのも事実である。したがって、本報告では五七人の拘禁者名簿から身元の確認可能な二九人だけをより分け、高麗共産党系(イルクーツク派、上海派)、パルチザン・赤軍系、コミンテルン系、その他非連累者に分けて、彼らの主な活動と経歴などを明かにしたい。まず高麗共産党系のイルクーツク派に

属する人物としては韓明世、金河錫、文昌範、崔高麗の四人を、上海派では洪濤、尹滋英、張道政、張基永の四人を挙げられる。パルチザン・赤軍派の人物としては呉夏黙、金擎天、韓昌傑、朴グルゴリ、朴イリヤ、金洪燮の六人を挙げることができる。コミンテルン系のクートベ出身としては崔成宇、朴允世、朴英、金奎烈の四人がここに含まれる。そのほかの人物としては呉昌燦、呉成黙、尹海、李承、朴雨、蔡桂花、金イリア、鮮干渉の八人がその対象である。なおスターリンの大粛正劇に巻き込まれたかどうかは確かではないが、生き残りともみられる人物として洪範図、延成龍、桂奉燦の三人を挙げられる。

しかし以上二九人の中で、「日本帝国主義のスパイ」、「人民の敵」、「反ソ暴動陰謀などの疑いで逮捕され、処刑されたり強制収容所に入れられたと確認される人物としては張道政、文昌範、韓昌傑らのわずかな数人にすぎない。以上の名簿に含まれている人物にたいする粛正の事実関係の可否はもちろん、当時朝鮮人の粛正の実状にたいするさまざまな問題の解明は今後の課題である。

朝鮮の解放直後から四八年末までソ連政府によっておよそ四五〇人程の在ソ朝鮮人テクノクラートが北朝鮮に派遣され、北朝鮮政權の創出過程に重要な役割を果たしたが、彼らのうち、三七年の強制移住以前にソ連の各種機関の主要ポストにいた朝鮮人党幹部や赤軍将校、行政官僚などはほとんど見当たらない。

このような事実こそ、ソ連における中堅の朝鮮人がほとんど粛正されたことを裏付けるものにほかならないのである。

在日朝鮮人運動史研究会 第一六六回例会

一九九四年五月十五日

報告 堀内 稔

「併合」前の在日朝鮮人労働者

―朝鮮鉛売りを中心に―

昨年九月の在日朝鮮人運動史研究会東西合宿で、「『併合』前の在日朝鮮人労働者」と題して、「韓国併合」以前にも日本の炭坑、鉄道工事、水電工事などで朝鮮人労働者が働いていた事実を主に新聞記事に基づいて発表した。時間の関係で、一つ一つの事実について詳しく報告できなかったため、今回はその続編として宇治川水電工事と朝鮮鉛売りに焦点をあてて報告した。

ここで宇治川水電工事を取り上げたのは、朝鮮鉛売りと若干関係してくるからである。宇治川水電工事の労働者が現場を抜け出し、鉛売りに転身していった例や、逆に鉛売りをしていたこの水電工事の労働者になったのではないかと推定される新聞記事がでてくるのである。

宇治川水電工事は宇治川電気会社によって一九〇八年一二月から工事が着工されたもので、工事場は滋賀県の瀬田川の上流の京都府と滋賀県の県境に、何ヶ所かに分かれて存在していた。朝鮮人労働者は最初に五〇余名が募集され、その結果が良好のため一九〇九年六月に新たに五八名が募集によって使役された。一九〇九年九月に日本人労働者と争闘事件がおこり、さらに翌一〇年八月には同盟罷業騒ぎになり、新聞にも大々的に報道された。

さて、鉛売りであるが、新聞記事などからその発祥は神戸ではなかったかと推測される。港町で渡航しやすかったこと、比較的人口が多く商売がやりやすかったことなどがその背景にあると思われるが、同じような条件の横浜はどうだったのだろうか。

朝鮮鉛は、砂糖が普及するまでは朝鮮の家庭で一般につくられていた。したがって大方の朝鮮人は鉛の知識、つくる技術をもっていた。また、比較的小資本で商売できることから、本国の鉛売りにならって日本で商売を始めても不思議でない。日本語が下手でも商売できることも有利な条件であった。

販売は、親方と売り子による販売システムで行われた。十数名が共同生活しながら鉛をつくり、親方が売り子に箱単位で鉛を卸す形である。神戸では荒田町、大阪では玉造や難波新地が中心となっていた。町での販売は、独特の形態の屋台を担いで行われた。こうした屋台が朝鮮本国でもあったのかどうかはわからない。売り子はその販売能力によって、収益に大きな差があったようだ。

鉛を売る時の呼び声は、「サラ鉛、朝鮮アメイ」であったと新聞記事にでてる。また、「鉛サラ鮮人」という表現もある。この「サラ」の意味が分からないと報告したが、後の討論で朝鮮語の「買え(サラ)」という意味ではないかとの説が出された。鄭詔文さんも同じ説を言っておられるが、どうなのであろうか。

「韓国併合」により、一部帰国する鉛売りもいたが、「併合」後も引き続き鉛売りは行われ、一九一〇年代半ば頃には、新開地にズラリと陣取った朝鮮鉛売りの群は、神戸の「奇観」といわれるまでになった。しかし一九一七年になると、くじが射幸心をあおるとして禁止されたことや、第一次世界大戦による好景気により、その多くはより実入りの多い労働人夫などに転身していった。鄭周彦という一在日朝鮮人の足跡は、こうした鉛売りの典型的な例であろう。彼は宇治川水電工事の労働者として日本にきたが、脚気で働けなくなり、労働現場を離れて神戸に来て鉛売りとなる。おそらく第一次大戦の労働者不足のときに、鉛売りから労働人夫に転身したのであろう。一九二三年の武庫川改修工事の竣工式で、労働者の親方として表彰されている。

第四十四回日韓キリスト教史研究会
(一九九四・五・二十八)

韓国キリスト教系新興宗教

後藤 聡

韓国の人口の1/4とか1/3がキリスト教徒であるといわれている。韓国を訪れたものは、夜あちこちで赤く輝く十字架を見ることができ、四つ角のそれぞれのコナリが教会という。のも珍しくない。日本のキリスト者は1%、日本牧師は何をやっているのだと青丘文庫や神戸学生青年センターを訪れる韓国人にいつもいわれる。しかし、韓国のキリスト教のなにかは何か、厳密に問うたことが韓国人自身あるのかと負け惜しみをいいたい。

もちろん、例えば、あの合同結婚式や靈感商法で有名な「統一教会」が正統的なキリスト教とはいえないことは誰しも認めるところである。しかし、まぎれもなく韓国で生まれたキリスト教系新興宗教である。その意味で、これらも韓国キリスト教史に位置付けて、無視や冷笑せず、検討することは重要である。

今年、2月に著名な宗教研究家、卓明煥氏がテソン教会所属の神学生によって殺害され、朴潤植牧師が指図した疑いで召喚状が出されているという。

今から二年ほどまえ、日本全国の教会に「タベラ世界宣教会」(当時本部ソウル・日本本部宝塚)からピラが送付されてきた。高校二年生の男の子が神から預言者として立てられ、一九九二年十月にイエスがあらわれるというのである。もちろん、イエスは現れずこの教会は瓦壊するのだが、彼等は決して自己目的的に宣伝したのではなく、本気になつてそう思っていた。莫大な郵送料をかけた、冷笑されることを覚悟してなされたことだからである。

一九二〇年代、韓国のキリスト教の一部は神秘主義に陥っていく。宗教本来がもっている神秘主義に、韓国のシャーマニズムが混合して「宗派」が作られた。

代表的な人物として李龍道(一九〇〇〜三三)があげられる。監理教の神学校を卒業後、超教派の復興士(熱狂的なバイバル説教家)で、二五歳で結核となり神と神秘的な合一体験をする。花婿に対する花嫁の性愛、それが神と人間との関係であり、「主との血の混合」をかたり、自らを苦悩するキリストになぞらえた。同時に黄国柱や白南柱などの同様な働きをするものや聖主教、胎内教などの宗派がおこり、現在に至る韓国キリスト教系新興宗教の基礎となるのである。

◆新着図書目録◆

- ・ 한국교회 논쟁사
朝鮮後期身分職役變動研究
李 俊九著 尹 孫淳著
- ・ 東洋思想と韓国思想
한국의 지역문화와 노동운동
한국의 지역문화와 노동운동
한국의 지역문화와 노동운동
- ・ 北朝鮮脱出上・下
大東文化研究 第28輯
成均大学校 姜 哲煥著
- ・ 한국 기독교 100년사
역사문헌연구소 회보 (제22호) 역사문헌연구소
한국의 기독교와 민족운동
한국의 기독교와 민족운동
- ・ 신제집행소의 민족운동
차별하는 그리스도
東亜日報社 朝鮮日報
- ・ 東亜日報 縮刷版・10・11・12
朝鮮日報 縮刷版・1993・7・12
飯沼二郎著 飯沼二郎著
- ・ 咸錫憲先生追慕文集
青丘學術論集 第4集
韓國文化振興財団
- ・ 韓國獨立運動と中國軍官學校
戰前日本の植民地教育政策に関する総合的研究 福岡県立大
東方學志 第82輯 延世大学

◆研究論文目録◆

- 合同研究会 一九九四年七月十七日(日)
- △第一部▽
在日朝鮮人運動史研究会 第一三八回例会
時間 午後一時半～三時
報告者 高木伸夫氏
テーマ 「失業救済事業と朝鮮人労働者」
- △第二部▽
朝鮮民族運動史研究会 第一六八回例会
時間 午後二時半～五時半
報告者 水野直樹氏
テーマ 「在滿韓人(朝鮮人)祖国光復会の成立と活動をめぐって」
——新しい中国史料からの考察——
- 日韓キリスト教史研究会 第四六回例会
一九九四年七月二三日(土) 午後二時
報告者 姜 信龍氏
テーマ 「渡瀬常吉と柳一宣」
- *場所はいづれも青丘文庫にて